

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4077700096		
法人名	社会福祉法人 ふたば会		
事業所名	グループホームふたば		
所在地	福岡県三井郡大刀洗町大字高樋1245番地1 (電話) 0942-77-0877		
自己評価作成日	令和元年9月1日	評価結果確定日	令和元年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所の周辺には、田園風景が広がり、穏かな生活環境に恵まれています。近隣住民の方々の声や馴染みの顔が見え、地域の夏祭り、ミニデイ、敬老会等のお誘いなど、様々な地域資源・地域との繋がりが身近に感じられます。GH運営推進会議のメンバーを中心に高樋区住民との協力体制を取り、認知症SOS訓練に取り組み地域との連携強化を図っています。利用者本人と家族との繋がりを大切にしています。外出・外食等の支援にも力を入れ、地域社会の中でのその人らしい暮らしの実現に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和元年9月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

周辺の環境はのどかな農村部で、自然に恵まれている。グループホームは特養などの福祉施設に隣接した別棟1ユニット9名の施設で、10年以上にわたり活動し、利用者は地域の中でその人らしい生活を送られている。地域行事の夏祭りやミニデイ、公民館活動に参加し、利用者と住民との交流がされている。地域では運営推進会議のメンバーや地域の人々の協力で認知症SOS模擬訓練などが開催されている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内やホール内に理念・方針・事業目標を提示し、常に意識出来るようにしている。職員研修時には、理念を唱和して振り返りを行っている。また日常生活の中でも、その場の行動が理念に沿ったものかを職員同士で注意しあうようにしている。	事務所内に理念「ひとりのえがお みんなのえがお」が掲示されている。地域との交流も盛んで職員との会議の際には、理念が唱和され、内容を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所での年間行事に家族の方や地域の方に声掛けたり、地域主催の夏祭り・ミニデイ等に積極的に参加して交流を深めている。1階デーサービスでの方々とも月2回の折り紙教室・慰問等を通して地域住民交流を深めている。	利用者の多くが地域での生活経験がある方が多く、隣接施設の利用者との交流も盛んである。地域の夏祭り、神事など行事への参加もされ、高校、大学生などの実習受け入れもされている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校の実習生を受け入れ、介護の喜び・苦労したこと等体験談等を通して認知症介護実践を活かしている。また認知症サポーター養成講座のキャラバンメイトとして地域の小学校・中学校・公民館・他事業所等に出向き講師として地域活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月1回開催し、パワーポイントを用いて毎月の活動報告・事故報告等を行い、地域の方々に意見やアドバイスを頂き意見交換を行っている。頂いた意見は積極的に取り入れながら、サービスの質の向上に繋げている。運営推進委員会を中心として、高樋区の地域住民との協力体制を取り、認知症SOS模擬訓練を実施している。	2ヶ月に1回運営推進会議が開催され、利用者や家族、地域の方、行政関係者など10名以上の参加がある。会議では施設周辺の環境整備や行事内容などについて意見をいただいている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村レベルの地域ケア会議に参加し情報交換を行っている。またオレンジメイト会議に参加し、会議を通して事業所の実績やサービスの取り組み等の報告をしている。介護保険更新時には、窓口に向いたり、利用者の困りごと等発生した場合には地域包括センターに相談しアドバイスなどを受けている。	市町村、地域包括支援センターとは定期的な会議参加や連絡など相互に訪問を行い、認知症への取組や行事、日常業務での助言をいただくなど協力関係ができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「福岡県身体拘束ゼロ宣言」を掲示、施設内・研修・外部研修に参加、身体拘束委員会を3ヶ月1回実施。身体拘束廃止の意識啓発に取り組んでいる。夜間の防犯上の施錠。	玄関や出入口に施錠はしていない。施設で身体拘束防止委員会を立ち上げ、「身体拘束ゼロ」に取り組んでいる。取組方法としてマニュアルの作成、職員研修やミーティングでの相互の確認を行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	メディアで虐待の報道等を施設内研修で取りあげ、その都度話し合う機会を作り虐待防止の徹底を図っている。利用者にあざ等を見つけた際には、ヒアリハットを活用し、些細なことでも見逃さないようにしている。虐待防止に取り組んでいる、お互い見てみぬ振りをしないよう、理念に沿って注意するように心掛けている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修の中でテキスト・パンフレット等を用いて勉強している。玄関窓口に誰も自由に持ち帰れるようにパンフレットを用意している。必要時には、ご家族様に手渡し・説明をしている。	全職員が権利擁護に関する研修に参加している。契約時などに利用者と家族に成年後見制度など権利擁護について説明をしている。施設内にマニュアル、テキストが配置されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項書類を用いてきちんと説明、不安・疑問点を確認し、納得されたのち手続きを行うようにしている。重要事項に変更が生じた場合には承諾を得た上で重要事項等に記名・捺印を頂いています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の面会の際には、職員の方から話しかけるように心掛けている。三世。家族・親族の方々が気兼ねなく意見・要望等話せるような雰囲気作りをしている。運営推進会議への出席案内をご家族様に送付し自由に参加出来るようにしている。	家族会での意見や家族との会話の中から、利用者の希望や意見を把握している。外出先の希望や訪問理容だけではなく、地域的美容院の利用を希望された場合は、希望の実現に取組んだ例がある。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスや研修を通して、運営に関するいろいろな情報等職員に伝え、職員の創意工夫が活かされるよう、役割と責任を持たせている。素直な提案・意見等が話し場を設け、個人面談を行うなど風通りの良い環境づくりを行っています。	管理者は職員との会議やミーティングで職員からの意見やアイデアを聞くようにしている。職員の要望や家庭の事情で勤務時間の変更をしたり、業務内容の見直しを行っている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人において就業規則・、給与規定、育児・介護休業規定等整備している。自己啓発や外部研修へ積極的に参加を促し、仕事の意欲に繋がるように支援している。子育ての職員に対しては、働く時間など個々のニーズに合わせた働きやすい職場環境を整備している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	本人の意欲を大事にして、特定の理由で採用対象から排除はしていない。仕事は楽しく生き活きる事が、事業所のモットーであり、各職員の得意分野の能力を発揮出来るような環境づくりをしている。	職員採用などに当たり、性別や年齢を理由に排除していない。人権研修は全職員が参加し、職員相互の関係などについて、人権尊重に取り組んでいる。勤務時間においても、職員の資格取得等の自己実現などに配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内外の研修において、職業倫理、個人の尊厳等について学習し、人権教育、啓発活動を行っている。毎月のスタッフ会議等で日々のケアが人権を尊重したものであるかについての話し合い、職員間での共通確認している。	管理者は職員の人権研修に力を置き、全職員に研修参加を勧めている。行政主催の外部研修等に参加した際は、伝達研修を実施し、記録が残されている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力や力量、向上心を見極め、外部研修等へ派遣し、職員のスキルアップ出来るように支援している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	筑後地区老協、県老協等に参加し他施設職員との交流を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面談を行い、事前に本人にも見学して頂くなど顔・場所を覚えてもらうことから始めている。入居後は本人との信頼関係を築く為、困っていること・不安なこと等本人の言葉を傾聴しながら話しやすい雰囲気作り、安心できる環境づくりに取り組んでいる。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談の段階から、家族等の困っていること・不安なこと、要望等を聞き取り、思いを受け止めている。入居後は生活状況を電話で報告、積極的に家族と話す機会をつくり、要望など話しやすい関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早期対応が必要な時には、特養のショートステイの利用を勧めたり、可能な限り柔軟な対応を行って居る。他事業所の紹介するなどの支援を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれが出来る範囲内で、掃除・洗濯・食事の準備等を職員と一緒にしながら、共に暮らしている。利用者の方に手伝って頂く事が多いので、日々感謝の言葉を伝えている。職員に労いの言葉をかけて下さることもあります。お互いが助け合いながら暮らしを共にする関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の広報誌を活用し日常生活の状況を報告・定期受診時にはその都度連絡。面会時にも近況を伝え家族との情報共有を図っています。毎月一回家族の方からお小遣いを頂き、外食・趣味活動に対応しています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事等に自由に参加してもらえるよう家族の方にも声掛けしている。家族の方と一緒に外出・外食等に出かける場の提供や、冠婚葬祭への出席など支援している。地域の公民館でのミニディや夏祭りにも参加している。デイサービスにも遊びに出かけたり、電話やお手紙などでも交流が図れるよう支援を行っている。	利用者のアセスメントや家族からの聞き取りなどによって、知人や馴染みの場所などを聞き取っている。隣接する外の高齢者施設から、友人が訪問してきている。散歩や敷地内の畑での収穫、神社への参拝など地域の人との交流が行われている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や人間関係等を十分に把握し、席順や入浴の順番等の気を配っている。散歩の際には、利用者の方が車椅子の方を押して下さる、支え合える関係が出来ている。利用者同士のトラブルには職員が仲介に入り、お互いが嫌な気分にならないように話をしたり、一人一人が孤立しないように楽しく生活出来るように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了された方にも、行事等にお誘いするなど、気軽に立ち寄れる関係を大事にしている。また困りごと・相談等気兼ねなく話せる関係を大切にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に利用者の要望を聞きながら個別に対応するなどその人らしい暮らしの実現に努めている。家族の方に今までの生活歴を聞き取りながら、職員側での思い込みでなく、その人らしい暮らしの実現に近づけるように支援している。	職員は利用者の思いや意向について、日常生活の会話の中で把握している。また、利用者の行動傾向や性格を把握し、本人本位の生活ができるよう支援している。日常生活で習字や塗り絵などその人らしい生活の支援に心がけている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、アセスメントをする際に家族等から聴き取りをしている。入居後も面会時に近況報告をするなかで、新たに以前の暮らしぶりや生活など家族から話を聞くこともあり、家族との情報共有しながらその人らしい暮らしの把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活のあらゆる場面で本人の「できること」「できないこと」を把握し、可能な限り家事を手伝って頂いている。一日のスケジュールは本人様のペースを大切に自由で生活して頂いている。一人になりたい時には、居室で過ごしていただいたり、廊下にソファを設置し一人で過ごせる空間の確保をしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で本人・家族等の意向を聞いたり、日々の生活状況や現在の心身の状態などを報告しながらケアプランに反映させている。職員間でもスタッフ会議カンファレンス内で現状を話し合い情報を共有している。身体状況に変化がある場合、随時見直し、その都度家族にも報告し、プランに同意の署名・捺印を頂いている。	利用者ごとに担当者を定め、状態など観察した情報や問題点は、日々の業務日誌に記録し、スタッフ会議開催時に意見交換を行い、全員が情報共有している。見直しは3ヶ月毎に行い、訪問看護師、主治医など関係者との話し合いから知りえた情報も反映させた介護計画を作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を細かく介護記録に記入するとともに、連絡ノートなど通して情報共有を図っています。日々のケアの中での気づきなどは、スタッフ会議中で話し合いを行い、こまめな対応が出来るようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズを把握し、希望を聞きながら訪問美容室・行きつけの美容室への送迎など、個々での外出支援も実施している。入院時の面会・洗濯物の取り換え等にも出向いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安全に暮らせるように、地域住民のふれあいネットワークづくりや、併設特養との災害時に向けた合同避難訓練を実施している。地区の夏祭り、敬老会に参加、お宮掃除、苑庭の散歩、畑の野菜の収穫して調理して、地域資源を活用し暮らしの楽しさを支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診・入院については、本人や家族が希望する病院に受診している。受診の際には職員が同行、日常生活状況等の情報共有するなど主治医との信頼関係を築いている。また、受診結果については家族報告し、常に情報共有し連携を図っている。	ホームに隣接するクリニックの提携医もいるが、受診は、かかりつけ医の希望があれば自由に継続でき、家族に選択してもらっている。基本的には、受診はスタッフが同行支援している。受診後は家族に報告を行い、受診記録書に記載し、全スタッフと情報共有している。また、週1回訪問看護師による入居者全員の健康管理を実施し、適切な医療を受ける支援をしている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が毎週木曜日に訪問し、利用者の健康チェックを行っている。その際日々の健康状態を報告し、必要なアドバイスを受けている。緊急時には併設特養の看護師に応援要請を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時には、面会・洗濯物を取りに行き看護師や担当SWnに利用者状態の確認、退院前のカンファレンスには、家族の方の了解を得て同席、医療関係者との情報交換を行うなど関係づくりを大切にしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時において重要事項説明とともに重度化した場合の対応について方針を説明している。身体機能の低下により、医療的ニーズが高く、事業所での対応が困難な場合には、本人・家族・主治医との話し合いをもっている。また、終末期に向けた住み替えがスムーズに移行できるよう看取りの可能な特養、医療関係者との連携も図っている。	重度化や終末期の在り方について「看取り介護マニュアル」があり、明文化している。今までに看取りの事例はないが、重度化した場合、早期に家族と話し合い、その都度確認し、かかりつけ医と連携してできる限りの対応・支援に努めている。同法人の全体研修で看護師より看取り研修を実施し、エンゼルケアについても研修を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故の時の対応についてのマニュアルを作成、研修等で勉強会を行っている。また消防署の協力を得て救急救命等の講習を受講している。職場内研修では、看護師から指導を受け、応急手当や初期対応の知識・技術を習得している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設特養との防災訓練を設備し、昼間及び夜間想定での避難訓練や消火器の操作訓練を定期的に行っている。避難の方法、避難経路の確認なども定期的に行っている。非常食等の、備蓄・賞味期限等の定期的に管理している。	火災・風水害・地震のマニュアルがある。同法人の特養・デイサービスと合同で消防署立会いの下、夜間想定も含み年6回の避難訓練を行っている。地域の方と共に「震度7」を想定した地震体験の訓練を実施している。グループホームが地域の避難所になっている。非常用備品も3日分程度を備蓄し、カセットコンロ・自家発電など準備している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重し、尊敬の念をもって接するようにしている。トイレ誘導や失禁時の声掛け等にも、プライバシーに配慮した対応を行っている。毎月のスタッフ会議では、職員の中心のケアや声掛けになって入らないかのケアの振り返りをしている。	接遇やマナー、プライバシー保護について研修を行い、言葉遣いやケアについても注意を払っている。入浴時や排泄介助時も過度な露出を避けるようにしている。毎月のお便りでの写真の使用についても、事前に同意をいただいている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者本人が自己決定が出来るような声掛けを行い、自分の思いや要望が上手く表出できない方には2者選択などで声掛けし自分で選択出来るように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしは、利用者それぞれの過ごしたい生活スタイルを重視している。リハビリ体操・散歩を実施する際には、本人の意向を重視し支援を行っている。居室で休んでいる人など自由に過ごされる。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えの時期には、家族の方に協力を依頼、日々の衣替えは本人の希望を聞きながら一緒に服を選んでいる。美容師による散髪日には、髪型の希望を聞いたり、行きつけの美容室へ行くなど自分らしいおしゃれ出来るよう支援している。化粧品を一緒に買いに行く支援も行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の能力に合わせた「食事の廃絶・食器片付け」一緒に買い物等出かけたり、食べたい物献立の中に取り入れたりしている。苑庭の野菜と一緒に収穫し、活用している。昼食時には職員も一緒に食事しながら家族的な雰囲気が感じられる支援している。	グループホーム内で献立を検討し、調理している。利用者には、配膳・盛り付け等をスタッフと一緒に手伝ってもらっている。苑庭の畑で育てたたくさんの野菜や果物を一緒に収穫し、食卓に出して、季節を感じながら、食事が楽しみなものになるように支援している。職員も一緒に食卓を囲み、食べたい物の希望は誕生日や外食の際などに希望を叶えるようにしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分摂取量をチェック、体重測定を定期的に行い、栄養状態を観察している。食事に関しては、一人一人の嚥下状態等を把握し、本人の嚥下状態に合わせた食事形態を工夫し提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の能力に合わせた口腔ケアを実施、必要に応じて介助を行い口腔内の清潔を確保するようにしている。義歯については、週1回清掃液にて消毒を行い管理している。異常時には訪問歯科との連携を図っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、一人ひとりの排泄パターンや排泄状況を把握し、その方に合った排泄支援を行っている。排泄の訴えが可能な利用者については、その都度トイレ誘導を行い、排泄困難者に対しては、主治医に相談し指示を仰いでいる。	利用者の排泄状況や水分摂取量の状態などを手書きで記入しており、前誘導を行ったリトイレ誘導も定時に誘導し、回数など記載している。オムツやパッドの検討を行い、病院入院時はオムツの方が紙パンツになり、トイレ排泄につながるケースがあった。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の対策として、体の運動・食物繊維を多く含む食事・乳製品や水分を多く摂るなど工夫をしている。個々に応じた腹部のホットパック・ホットマッサージを実施。便秘系統がある利用者に対しては、主治医へ相談し指示を仰いでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	浴槽は個浴・リフト浴双方可能な設備を設置し本人の身体状況に応じた支援をしている。毎日の入浴を基本としているが、本人の意向を確認しながら入浴支援を行っている。入浴拒否がある場合には無理強いせず、利用者の気持ちに寄り添って対応するようにしている。	浴槽は広めのユニットバスであり、リフト浴も可能である。入浴は朝8時より入浴でき、毎日入浴も可能であり、好きな時間にいつでも入浴できる。現在は、入浴を拒否される利用者はいないが、以前には、共感しながらそれぞれに合わせた対応を行っており、無理強いしないように清潔保持に努めている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の体調や生活リズムに合わせ、居室で休まれたり、畳の部屋で休んで頂いたり短時間の昼寝するなど安心して休息できるような支援をしている。季節に応じて居室内の温度・湿度調整、寝具などの調整を家族の方にも協力を依頼し安眠出来るような環境づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は調剤薬局の薬剤師が管理、薬情書等は個人記録にファイルし職員が常に確認できる状態にしている。不明な事は薬剤師に相談している。薬の処方変更が生じた際には、受診報告書・日誌・申し送りノートに記載し周知を図っている。症状等に変化があれば主治医へ報告、指示を仰いでいる。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメント、日々の生活の中で、本人・家族から生活歴や趣味などを聴き取り、本人にあった役割や楽しみを見つけ生きがいくりに繋げている。家族の協力のもと、毎月のお小遣い1000円で、外出・外食等の支援で気分転換が図れるようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、苑庭の散歩・ドライブ・食材の買い物等に利用者と一緒に出かけています。季節の花見も実施。また、近隣の公園へ遊びに出かけたりして、地域の方・子供達に触れ合う機会を作っています。本人様家族の希望で、外出・外食等の支援を設けています。	敷地内は十分に広く、庭木もあるため、外気に触れることは気軽にできる。散歩をしながら畑で育てた野菜を穫りに行ったり、苑庭の散歩や近くの公園に行くなど毎日行っている。本人・家族の希望で毎月、外食・買い物・ドライブなど家族と協力しながら支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして、毎月1000円を家族の方から頂き事業所の方で管理している。外出時には自分でお金を自由に使えるように支援している。買い物をする際には職員が付き添い見守りを行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すればいつでも電話が使用出来るようにしている。また、家族の了解を得て、本人からでも電話がかけられるように支援している。自分でお手紙を書ける方には、書いた手紙を投稿するなど支援もしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・事務所・廊下等を一体化に繋がりをもち、広々とした空間にしている。季節ごとの利用者の作品や苑庭の花等を飾り居心地の良い空間づくりをしている。食堂やリビングには、ご飯を作る所が見えて生活感あふれる環境になっている。室温はエアコン等で調整、居室やトイレに消臭剤なども設置、気持ち良く過ごせるように配慮している。	共有の空間には小上がりの和室スペースがあり、休憩や地域の避難場所としても活用されている。明るく広々としており、非常に開放的である。廊下の幅も広く所々にソファが置かれており、休めるように配慮されている。温度・湿度計も居室や共有スペースに設置され管理されている。苑庭で栽培された季節の花も飾られ、居心地よく過ごせる空間となっている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	室内や廊下にソファを設置し、利用者一人一人が気兼ねなく自由に過ごせ居心地良い場所、一人になれる空間の確保をしている。リビングの椅子も自分の好きな場所でゆっくり新聞を広げたり、気の合った方達とのお話しを楽しめるようにソファの位置にも配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談し、使い慣れたタンス・飾り棚・椅子・お仏壇等馴染みの物やこだわりの物を自由に持ち込むことが出来るようにしており、その人らしく暮らせる居室環境づくりを支援している。	居室はホールから伸びた廊下沿いに配置されており、静かに過ごせるように工夫されている。ベッド・エアコン・カーテンが備え付けられている。使い慣れた家具やテレビ、お仏壇等を持ち込まれ、好みの物を飾ったり、家族の写真を置かれたり、利用者の方が落ち着いて過ごせるように、工夫された居室となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は段差もなくバリアフリーで車椅子の方でも自由に移動が可能。トイレや階段、廊下には手すりを設け安全な移動を確保。身体機能に踏まえ、L字バー・ポータブルトイレを設置している。特養との渡り廊下は、本人の行動を制限することなく歩いていけるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない